

1) これまで主婦一般を対象として、家事労働と主婦の疲労について調べてきたが、この度は別府の特徴的な、ひとつの典型として旅館業の主婦に目を向けた。ここでは家業と家務の二つながらを統一的にとらえねばならないこと、資本主義経済社会においては高度の合理化が求められている点、また以前は家庭生活がもっていた機能を旅館業の方に肩がわりされてきている傾向で、これは家政学の立場から興味ある問題であり、家庭生活の変化発展に伴って主婦はこれからどのように考え対処したらよいか、について指針を得ようとする。

2) まず家業と家務に対する態度を四つの類型にわけ、それぞれは家業合理化の方向と人間をだいにしようとする立場を対比させながら、家庭生活の本質をたしかめる。質問紙法によって資料を得、個別的事例的に、生活全体との関連としてとらえる。

3) ◎睡眠時間はギリギリ切りつめたところ何時間か、どのような期間の馴れから固定したか、固定するものか。

◎労働時間短縮のくろうとして、家事作業はどのように短縮し得るか、またその時〈家庭生活の本質〉について十分配慮されてのことか。

◎余暇時間はどれくらいどのように取れているか。

◎疲労の訴え、病氣持病はどうか。